

Title	第9回臨床哲学フォーラム「狂気な倫理：「愚か」で「不可解」で「無価値」とされる生の肯定」の特集にあたって
Author(s)	小西, 真理子
Citation	臨床哲学ニューズレター. 2024, 6, p. 3-5
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/94553">https://doi.org/10.18910/94553</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

特集 1

第9回臨床哲学フォーラム（シリーズ：規範の外の生と知恵）

テーマ「狂気な倫理：「愚か」で「不可解」で「無価値」とされる生の肯定」

第9回臨床哲学フォーラム  
「狂気な倫理：「愚か」で「不可解」で「無価値」とされる生の肯定」  
の特集にあたって

小西 真理子

日時：2023年2月11日(土) 10:00～17:30

場所：大阪大学豊中キャンパス文法経講義棟 41

開催方法：対面+Zoom

【企画案内】

2022年8月に出版された、小西真理子・河原梓水共編著『狂気な倫理：「愚か」で「不可解」で「無価値」とされる生の肯定』の合評会です。

推薦文（小泉義之：立命館大学名誉教授）

愚かな人生はある。不可解な生活もある。無価値な生もあるだろう。しかし／だから、狂おしい思いで、その狂える倫理を書きとめる。何か狂う。何か正される。そして何か動き出す。若き友人たちの本ができあがった。

「まえがき」より（小西真理子：大阪大学准教授）

私は、学問の世界の魅力のひとつは、ともすれば切り捨てられかねないような思想や物言いが、世の中で発せられるための武器や場所を与えることだと信じている。……本書に集められた、世間一般的には「愚か」で「不可解」で「無価値」とされがちな生に「意味」を見いだそうとする営みを、本書では「狂気」と名づけたい。このような「狂気」を肯定する人びとこそが、「狂気な倫理」を表出させる者たちである。

「あとがき」より（河原梓水：福岡女子大学講師）

彼らは大学という空間とは異なる場所から、その場所の流儀で語りかけているだけなのだ。あるいは、とにかく断絶のある向こう岸から語りかけてきている。とはいえ、その言葉は彼らが存在した場所でなら、すらすらと通じたわけでもない。その場合、彼らは大学院には来ない。わけがわからず、本人ももどかしい思いをしながらも、何かを背負ってしゃべっている。

第 I 部 「愚か」な生を肯定する

1章 虐待の連鎖 2章 カサンドラ 3章 おひとりさま 4章 毒親 5章 子どもの産み捨て

第 II 部 「不可解」な生を肯定する

6章 マゾヒスト 7章 釜ヶ崎 8章 ひきこもり 9章 妖怪人間ベム

第 III 部 「無価値」な生を肯定する

10章 ナイチンゲール 11章 パラリンピック 12章 音声言語処理 13章 先天性代謝異常等検査

**【プログラム】**

第 I 部 総評

10:00-10:20 趣旨説明、登壇者紹介：【司会】小西真理子（大阪大学）

10:20-11:00 総評 小泉義之（立命館大学）

11:00-11:30 執筆者からの応答

11:30-12:00 会場からの質疑応答

休憩（60分）

第 II 部 「愚か」な生を肯定する

13:00-13:30 コメンテーターからの論評と質問 三木那由他（大阪大学）

13:30-14:00 執筆者からの応答

小西真理子、高木美歩（立命館大学）、貞岡美伸（京都光華女子大学）

14:00-14:15 会場からの質疑応答

14:15-14:30 休憩（15分）

第 III 部 「不可解」な生を肯定する

14:30-15:00 コメンテーターからの論評と質問 ほんまなほ（大阪大学）

15:00-15:30 執筆者からの応答

河原梓水（福岡女子大学）、鹿野由行（関西大学）、石田仁（日工組社会安全研究財団）、  
小田切建太郎（立命館大学）、山本由美子（大阪公立大学）

15:30-15:45 会場からの質疑応答

15:45-16:00 休憩

第 IV 部 「無価値」な生を肯定する

16:00-16:30 コメンテーターからの論評と質問 檜垣立哉（大阪大学）

16:30-17:00 執筆者からの応答

柏崎郁子（立命館大学／東京女子医科大学）、北島加奈子（立命館大学）、  
笹谷絵里（花園大学）

17:00-17:15 会場からの質疑応答

17:15-17:45 全体討議

2023年2月11日（土）に第9回臨床哲学フォーラム「狂気な倫理：「愚か」で「不可解」で「無価値」とされる生の肯定」を開催し、コメンテーターとして登壇いただいた立命館大学の小泉義之さん、大阪大学の三木那由他さん、ほんまなほさん、檜垣立哉さんをはじめ、フォーラムテーマと同名の著書『狂気な倫理：「愚か」で「不可解」で「無価値」とされる生の肯定』（晃洋書房、2022年）の執筆者のみなさん（小西真理子、高木美歩、貞岡美伸、河原梓水、鹿野由行、石田仁、小田切建太郎、山本由美子、柏崎郁子、北島加奈子、笹谷絵里：発表順）にご発表いただきました。

『狂気な倫理』は、立命館大学先端総合学術研究科（先端研）の生命領域、特に小泉義之先生に指導を仰いだ有志メンバーを中心とした企画でした。先端研の英語名は **Core Ethics and Frontier Science** ですが、本書は、**Core Ethics**、すなわち、「核心となる倫理」として、「狂気な倫理」（狂気＝世間一般的には「愚か」で「不可解」で「無価値」とされがちな生に「意味」を見出そうとする営み）を据えています。小泉先生の影響を受けた執筆陣からなる本書の雰囲気は、生命領域、ひいては、先端研のカラーも反映されたものとなっていると自負しております。

合評会には100名を超える方々が会場およびZoomを通じてご参加くださいました。遠方から会場までお越しくくださった方もいらっしゃり登壇者の方々も驚いていました。幅広い方々にご参加いただいたことをとてもうれしく思っておりますが、特に意欲的な若手研究者の方々の勢いあるご質問やお問い合わせをいただいたことが印象的でした。本書はある意味、粗削りな（若手）研究者の勢いからなるようなものです。何かに抵抗したり、声をあげたりする営みを、学問を通じて行うことの意味が、誰かにとって少しでも見出されるようなフォーラムであったのであれば、本書編著者として、そして、本フォーラムの企画者として大きな喜びです。私にとっても、ひとつの「節目」のようなイベントでした。今後とも精進いたしますので、みなさまよろしく願いいたします。

（こにし・まりこ）